学校番号	302

平成 31 年度　音楽科

教科	音楽	科目	声楽Ⅱ（独唱）	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	高校生の音楽２（教育芸術社）						
副教材等	イタリア歌曲集１・コンコーネ 50 番（全音出版）・その他						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

この授業では、イタリア歌曲集とコンコーネ５０番、ファイル、筆記用具、進度に合わせて使用する楽譜を各自持参してください。専門実技の力を伸ばすためには不断の努力が必要です。日々の練習時間を毎日の生活で確保し、指導された内容について復習を十分に行いましょう。楽曲に取り組む際、ソルフェージュや音楽理論の知識や技能を応用し、楽曲の表現内容の理解を深めレッスンに臨みましょう。

普段の授業の成果を発表する場として、学内演奏会（ピッコロコンチェルティスタ）があります。試験の課題に加え、進度に合わせ本番で演奏する機会を積極的に持ちながら学んでいきましょう。

2　学習の到達目標

声楽に関する専門的な学習を通して、楽曲の表現内容を理解し、表現意図を明確にして創造的に表現する能力を養う。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:音楽への関心・意欲・態度	b:音楽表現の創意工夫	c:音楽表現の技能	d:鑑賞の能力
観点の趣旨	音楽文化を尊重し、主体的、創造的に音楽の学習を行い、楽曲の表現内容を積極的に理解し表現意図を明確にして積極的に演奏活動を行おうとする。 演奏発表の場では演奏を共有し、互いに評価しあったりする活動に積極的に取り組もうとする。	音楽を形作っている要素を知覚し、それらの動きを感受しながら、楽譜の行間を読むことができ、音楽表現を表現内容の理解に基づいて工夫し、表現意図を持って創造的に表現しようとする。	音楽理論、ソルフェージュなどの基礎的音楽能力を応用し、楽譜に示された音楽を正しく再現することに加えて創意工夫を生かした音楽表現をするための技術を身につけている。	音楽を形作っている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、価値を判断し、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わい、発表の場では互いの演奏や自己の演奏を分析し、的確に言葉によって表現することができる。
評価方法	授業態度（観察）	演奏聴取（実技試験）	演奏聴取（実技試験）	授業態度（観察）

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

<table>
<tr><th rowspan="2">月</th><th rowspan="2">単元名</th><th rowspan="2">学習内容</th><th colspan="4">主な評価の観点</th><th rowspan="2">単元(題材)の評価規準</th><th rowspan="2">評価方法</th></tr>
<tr><th>関心・意欲・態度</th><th>創意・工夫</th><th>技能</th><th>鑑賞の能力</th></tr>
<tr><td>4
～
8</td><td>曲種に応じた表現を可能にする
安定した発声のための声作り</td><td>コンコーネ No19～27
Dimmi, amor
Tu lo sai
Se Florindo e fedele
Per la gloria d’adorarvi
Se tu m’ami
他</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td rowspan="3">a:マンツーマンの担当教員と共に、常に改善を図り、個別の進度に合わせて指導された個別の指導内容が次のレッスン授業や、試験で改善されている。

b:楽曲の作られた時代や作曲されている曲のスタイルに相応しい奏法で表現を工夫し、表現意図を明確にして創造的に表現することができる。特に、フレージングを美しく描こうとすることやそのために必要な技能を総合的に高めることができている。

c: 音高、リズムなど楽譜に書かれたことを正しく読み取流ことに加え、楽譜の行間を読み曲種や詩の内容に応じた発声や表現方法で歌い、表現意図を明確にして創造的に表現することができる。

d:他者の演奏や自分の録画・録音物を聴く、演奏会で直に演奏を聴いた時、音楽の要素ごとに分析し、よりよい表現のための方法を言葉によって的確に表すことができるとともに、自分に振り返って感じ得たことを照らし合わせることができる。</td><td>観察
演奏聴取</td></tr>
<tr><td>9
～
12</td><td>イタリア・ドイツ語の正しい発音</td><td>コンコーネ No28～34
Intorno all’idol mio
Dormi, bella
Deh,piu a me non V’ascondete
Se tu m’ami,
O del mio doce ardor
他</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>観察
演奏聴取</td></tr>
<tr><td>1
～
3</td><td>曲種に応じた表現内容の近いと音楽作り</td><td>コンコーネ No35～37
Tu mancavi a tormentarvi
北秋の、ふるさと、母、浜千鳥、Ridente la calma
Vaghissima sembianza
Vaga luna 他
・トスティ、ドナウディ、ベッリーニ等の課題と日本歌曲を含む
・進度に合わせて、アリアなどの課題は学内演奏会を利用して演奏する。
・取り扱う曲目については必要に応じて担当教員会議を経て検討する。</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>観察
演奏聴取</td></tr>
</table>